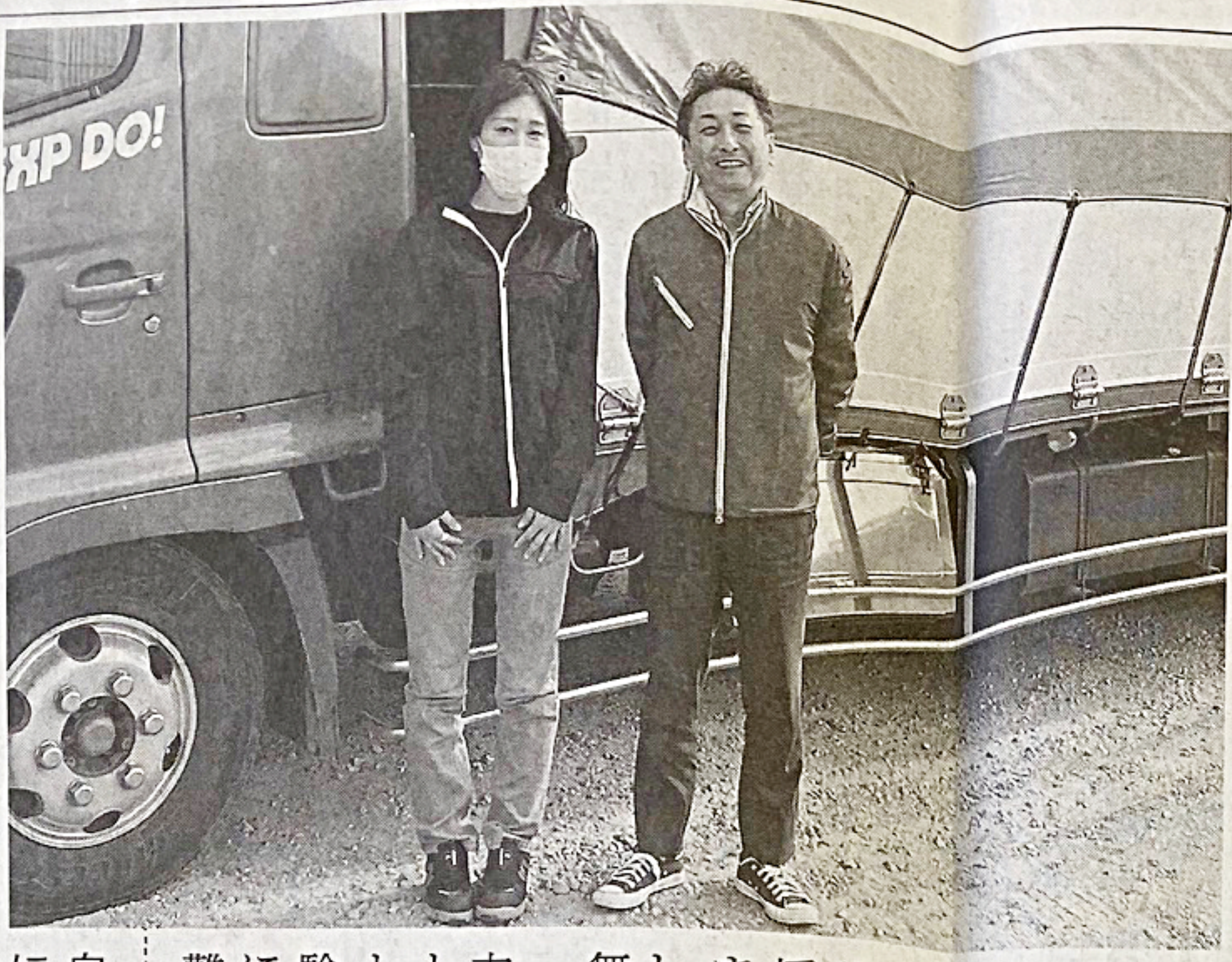

中山商運

人材「掛け替え無い宝」

長く働ける職場づくり

【三重】中山商運（中山豊社長、三重県松阪市）はこの1年間で女性を含む30代前半のドライバー4人を採用した。中山社長は「今まで人材確保でかなり苦労してきたが、こんなことは無かった」と喜んでいる。

建設資材などの運搬が主力業務で、車両も平ボディー車とトレーラが中心。シート掛けや荷締め作業は経験と技術を要するため、特に若いドライバーの確保が難しかった。しかし、20年春以降は30～33歳の男性3人が入社し、今年1月中旬には井村愛さんも社員になった。

井村さんはハローワークの求人に応募してきた。当初、同社の仕事は力仕事が多く、女性には難しい仕事だと思っていた中山氏だったが、ハローワークの担当者を通じて本人の熱意を聞き、面接を実施。「型枠工事の仕事をし、建設現場をよく知っていた。試しに作業させてみると、シート掛けを完璧にこなし、ロープを使った荷締めも上手だった」

2週間の横乗り指導を経て、2月1日に実戦デビューした井村さん。現在は中型自動車免許までの保有だが、「これから大型免許とけん引免許を取得し、トレーラに乗るのが夢」とほほ笑む。中山氏も「彼女の父親も建設関係の仕事をしてる。トラック業界全体で高齢化が加速する中、会社の将来を担う人材を確保する意味は大きい。

中山氏は「この1年間で若い人が次々に入社してくれた背景には、多少なりとも新型コロナウイルス禍の影響があると推察している」が、人材は我が社にとって掛け替えの無い宝だ。まだまだ、手塩にかけて大切に育てたい」と話す。

ほかにも有望な若手が集まった。大学を卒業してコンクリート関連企業で働いていた30歳の男性は、大型免許と小型クレーン免許を保有する即戦力。また、いずれは配車の仕事もやりたいと、運行管理者の資格取得を目指す33歳の男性もい